



生分解性プラスチック分野の出願動向

－ 特許出願技術動向調査「プラスチック資源循環より」 －



1. 背景

- 地球規模での資源・廃棄物制約や海洋プラスチックごみ問題への対応が求められており、世界全体の取組として、プラスチック資源循環体制を構築するとともに、海洋プラスチックごみによる汚染防止を進めることが必要となっている。このため、バイオマスプラスチック、紙等の化石資源由来プラスチック代替品の開発や転換、リサイクル技術の開発、海洋生分解性プラスチックの開発・利用など、プラスチック資源循環に関する技術がますます重要になる。
- このような背景のもと、SDGsの観点からも、近年、特に注目されている「プラスチック資源循環」の分野について特許出願技術動向調査分析が行われた。
- 以下では、同調査結果より、生分解性プラスチック(微生物の働きによって最終的に水と二酸化炭素にまで分解されるプラスチック)等に関する、プラスチックの製造技術、リサイクル技術などの要素技術、課題の出願動向について取り上げるとともに、応用産業(用途)についても言及する。

2. 要素技術 (製造技術、リサイクル技術)

3. 材料・製品特性の改良 (課題)

4. コメント

” HARAKENZO *more* ” IP Information Delivery Section

- 本記事の全文をご希望の方は「記事申込」ボタンをクリック。
(お申し込みの際、本記事の日付・タイトルの入力が必要となります。)
- 公式Twitterでは本記事のような当所オリジナル資料の情報を随時ご案内致します。お気軽にフォローしてください。
- 世界中の知財に関する最新トピックスを月一配信！
配信ご希望の方は「ニュースレター配信申込」ボタンをクリック。

※本記事の提供については、利益相反、その他の理由によりご希望に添えない場合もありますこと、ご承知おきください。